

越冬キャベツ… I

担当者 技能研究員 三上 益由

試験課題名	品種系統選定試験
目的	11月どり品種系統の栽培特性と貯蔵性を比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会キャベツ部会

1 供試品種・資材

品種

※ 冬 駒 (タキイ) 湖 月 (タキイ) 大学寒玉 (大学)
TCA-400 (タキイ) T-520 (タキイ)

※基準品種

2 耕種概要

土 質 ~ 埴壤土

前 作 ~ ばれいしょ

播 種 日 ~ 6月18日 定 植 日 ~ 7月25日 収 穫 日 ~ 10月30日

栽 植 密 度 ~ 畦幅60cm×株間45cm 3,703株/10a当たり

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
5.9	0.176	63.4	50.6	70.3	200.9	8.7

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

太古の風化貝 ~ 300kg (カルシウム 30.3% ケイ酸 26.7%) 堆 肥 ~ 2,000kg

(3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ~ BBS611L (16 - 11 - 11 - 2) 7月16日 全層施肥

分 肥 ~ BBNK20 (20 - 0 - 10) 9月 8日 側条施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K	Mg
基 肥	BBS611L 100kg	16.0	11.0	11.0	2.0
分 肥	BBNK20 40kg	8.0	-	4.0	-
合 計		24.0	11.0	15.0	2.0

4 調査項目

生 育 調 査 ~ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・結球始期・結球期

収 量 調 査 ~ 総重量・調整重・調整率・調整収量・慣行比・規格内割合・障害

特 性 調 査 ~ しまり・球径・球高・緑色・球形指数・食感・硬さ・糖度 (Brix)

枯 れ 葉 調 査 ~ 10月31日 (収穫時)・1月14日・2月10日

5 生育調査

項目		品種	冬駒	湖月	大学寒玉	TCA-400	T-520	
播	種	日	6月18日					
発	芽	期	6月22日	6月21日	6月23日	6月23日	6月23日	
発	芽	率 (%)	97.2	96.3	98.6	94.6	95.8	
定	植	日	7月25日					
定植時の苗質	葉数 (枚)		4.0	3.7	3.8	4.0	3.3	
	葉長 (cm)		4.5	4.4	4.3	4.7	4.7	
結	球	始	期	9月9日	9月8日	9月8日	9月8日	9月9日
結	球	期	9月26日	9月25日	9月25日	9月26日	9月26日	

6 収量調査

項目		品種	冬駒	湖月	大学寒玉	TCA-400	T-520	
総	重	量 (kg/球)	3.0	4.4	3.5	3.0	3.1	
調	整	重 (kg/球)	1.7	2.6	2.2	1.8	1.7	
調	整	率 (%)	56.7	59.1	62.9	60.0	54.8	
調	整	収	量 (kg/10a)	6,295	9,628	8,147	6,665	6,295
慣	行	比 (%)	100	153	129	106	100	
規格別割合 (%)	3玉 ~ 4玉		0	35	10	0	0	
	5玉 ~ 6玉		45	60	70	50	45	
	7玉 ~ 8玉		55	5	20	50	55	
	9玉 ~ 10玉		0	0	0	0	0	
障	害	虫	0	0	0	0	0	
	障	害	球	0	0	0	0	

※ 規格 3玉 3.4kg以上 4玉 2.5~3.3kg 5玉 2.0~2.4kg
6玉 1.7~1.9kg 7~8玉 1.3~1.6kg 9~10玉 0.9~1.2kg

※病虫害(無0~有5)・障害球(良0~不良5)

7 特性調査

項目		品種	冬駒	湖月	大学寒玉	TCA-400	T-520	
外	観	しまり(良5~不良1)	3.0	4.0	4.0	3.5	4.0	
		球径 (cm)	19.6	21.8	22.4	21.3	21.7	
		球高 (cm)	14.0	14.8	13.5	14.2	14.1	
		緑色(良5~不良1)	3.0	3.0	4.0	3.5	3.0	
		球形指数 (%)	71.4	67.9	60.3	66.7	65.0	
食	味	食感(良5~不良1)	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	
		硬さ(良5~不良1)	3.0	4.0	4.0	3.0	2.0	
10月31日	調	査	枯れ葉	0	0	0	0	0
			糖度(Brix)	7.6	7.8	8.5	7.9	8.1
1月14日	調	査	枯れ葉	0	0	0	0	0
			糖度(Brix)	7.7	7.9	7.5	7.2	7.5
2月10日	調	査	枯れ葉	1	0	0	0	0
			糖度(Brix)	7.2	6.0	7.0	7.2	7.1

※枯れ葉(多3~少1~無0)

8 病害虫防除履歴

殺虫剤			殺菌剤		
7月25日	オンコルマイクロカプセル	100倍			
8月12日	アディオン乳剤	2,000倍			
8月23日	トレボン乳剤	1,000倍	8月23日	ダコニール1000	1,000倍
9月 8日	オルトラン水和剤	1,000倍	9月 8日	スターナ水和剤	1,000倍
9月16日	アディオン乳剤	2,000倍			
9月22日	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍			
9月30日	オルトラン水和剤	1,000倍	9月30日	トップジンM水和剤	1,000倍

9 試験結果概要

(1) 生育経過

- ① 育苗は128穴成型トレーにプラグエースを充填し6月18日播種。3日後の6月21日に湖月が発芽期となり、1日遅れて冬駒、6月23日には大学寒玉と他の2品種も発芽期を迎えた。
- ② 定植は7月25日に実施。定植時の葉数は冬駒とTCA-400が4.0枚、葉長はTCA-400とT-520が4.7cmという調査結果となった。
- ③ 結球始期は9月8日に湖月・大学寒玉・TCA-400が始まり、冬駒・T-520は1日遅れて9月9日となった。

(2) 収量調査結果

- ① 収量調査は10月31日に実施した。基準品種の冬駒の調整収量は6,295kg/10aであった。T-520は冬駒と同じであったが、これに対し湖月は9,628kg/10aとなり、他の2品種も冬駒を上回る結果となった。
- ② 規格内割合で見ると、冬駒・TCA-400・T-520は5玉～6玉と7玉～8玉で半々の割合であったが、湖月は3玉～4玉が35%とやや玉重が大きい結果となった。
- ③ 病害虫の障害球は、特に目立つ品種はなかった。調整率は5品種平均で58.7%であり、最も高かったのは、大学寒玉の62.9%であった。

(3) 特性調査結果

- ① 球品質のしまりは冬駒の3(良5～不良1)に対して、湖月・大学寒玉・T-520は4と良好であった。調整後の緑色はTCA-400が3.5、大学寒玉が4で基準品種の冬駒よりも優れた結果となった。
- ② 外観の球形指数は基準品種の冬駒が71.4%と5品種の中で最も高い結果となった。収穫時の糖度は冬駒が7.6度であったが、大学寒玉は8.5度で最も高かった。
- ③ 枯れ葉発生調査は収穫時の10月31日と、雪中貯蔵後の1月14日、2月10日と3回行い、収穫時・2回目の調査では枯れ葉の確認された品種はなかった。2月10日の3回目調査では冬駒に少量の枯れ葉が確認されたが、他の品種に枯れ葉の発生はみられなかった。

(4) 考察

10a当たりの調整収量は基準品種である冬駒の6,295kgに対し、湖月は9,628kg(収量比153%)、大学寒玉 8,147kg(収量比129%)となった。

外観の緑色では、湖月は冬駒と同様の3.0(良5～不良1)であったが、大学寒玉は4.0、TCA-400は3.5と緑色が良く、期待される試験結果となった。また、本年度初めて栽培したTCA-400とT-520は枯れ葉の発生は見られなかったので次年度も試験を継続したい。